

県産素材を用いたインセンスアイテムの開発

—歴史と文化が薫るものづくり事業—

Development of incense items using the material produced in Aomori Prefecture

山口 信哉、菊地 徹、奈良岡 哲志、内沢 秀光、澤田 新平^{*1}、鎌田 淳^{*1}、
船水 悟^{*2}、山谷 良文^{*2}、小田桐 久藏^{*2}
(*¹林業研究所、*²青森県中南地域県民局)

青森県弘前市を中心とした中・南津軽地域は、農林業が盛んな地域であり、米やリンゴばかりでなく、青森ヒバやスギの産地でもある。そのため稲わらやリンゴ剪定枝、ヒバの端材、スギの間伐材など大量のバイオマスが存在する。リンゴ剪定枝は地域特有なものであり、毎年約数万トン以上発生している。また、ヒバは青森県の県木であり、スギの生産量は全国4位である。一方、弘前市は、旧津軽藩の中心地であり、日本一の桜を誇る弘前公園や33の禅寺が集まっている禅林街などを有し、歴史と文化に富んだ地域である。

このような地域の特性を活かした新産業や地域の活性化として、桜香やリンゴ香、ヒバ香などの香りとバイオマスをマッチングさせたインセンスアイテムに着目し、開発に取り組み、合成香料を使用することなく、リンゴファイバーや桜葉、ヒバ油を原料に用いて、それぞれ焚いたときにリンゴや桜、ヒバの香りがするインセンスを新規に試作開発した。

